校異源氏物語・かけろふ

かしこには人〻おはせぬをもとめさはけとかひなし物かたりのひめ君の人にぬすまれたらむあしたの様なれはくはしくもいひつゝけす京よりありしつかひのかへらすなりにしかはおほつかなしとてまた人おこせたりまたとりのなくになむいたしたてさせ給へるとつかひのいふにいかにきこえんとめのとよりはしめてあはてまとふことかきりなし思ひやるかたなくてたゝさはきあへるをかの心しれるとちなんいみしく物をおもひ給へりしさまを思ひ出るに身をなけたまへるかとはおもひよりけるなく　くこのふみをあけたれはいとおほつかなさにまとろまれ侍らぬけにやこよひは夢にたにうちとけてもみえす物におそはれつゝ心地もれいならすうたて侍るを猶いとおそろしくものへわたらせ給はん事はちかゝなれとその程こゝにむかへたてまつりてむけふはあめふり侍ぬへけれはなとありよへの御かへりをもあけてみて右近いみしうなくされはよ心ほそきことはきこえ給けり我になとかいさゝかの給ことのなかりけむをさなかりし程よりつゆ心をかれたてまつる事なくちりはかりへたてなくてならひたるにいまはかきりのみちにしも我をゝくらかしけしきをたにみせたまはさりけるかつらき事とおもふにあしすりといふ事をしてなくさまわかきこともものやうなりいみしくおほしたる御けしきはみたてまつりわたれとかけてもかくなへてならすおとろく　しきことおほしよらむものとはみえさりつる人の御心さまを猶いかにしつる事にかとおほつかなくいみしめのとは中　く物もおほえてたゝいかさまにせむいかさまにせんとそいはれける宮にもいとれいならぬけしきありし御かへりいかに思ならん我をさすかにあひ思たるさまなからあたなる心なりとのみふかくうたかひたれはほかへいきかくれんとにやあらむとおほしさはき御つかひありあるかきりなきまとふ程にきて御ふみもえたてまつらすいかなるそとけす女にとへはうへのこよひにはかにうせ給にけれは物もおほえ給はすたのもしき人もおはしまさぬおりなれはさふらひ給人　くはたゝものにあたりてなむまとひ給といふ心もふかくしらぬをのこにてくはしうとはてまいりぬかくなんと申させたるに夢とおほえていとあやしいたくわつらふともきかすひころなやましとのみありしかときのふのかへりことはさりけもなくてつねよりもおかしけなり

し物をとおほしやるかたなけれはときかたいきてけしきみたしかなる事とひきけとの給へはかの大将殿いかなることかきゝ給事侍けんとのゐするものをろかなりなといましめおほせらるゝとて下人のまかりいつるをもみとかめとひはへるなれはことつくることなくてときかたまかりたらんをものゝきこえ侍らはおほしあはすることなとや侍らむさてにはかに人のうせ給へらん所はろなうさはかしう人しけく侍らむをときこゆさりとてはいとおほつかなくてやあらむ猶とかくさるへきさまにかまへてれいの心しれるしゝうなとにあひていかなることをかくいふそとあないせよけすはひかこともいふなりとの給へはいとおしき御けしきもかたしけなくてゆふつかたゆくかやすき人はとくいきつきぬあめすこしふりやみたれとわりなき道にやつれてけすのさまにてきたれは人おほくたちさはきてこよひやかておさめたてまつるなりなといふをきく心ちもあさましくおほゆ右近にせうそこしたれともえあはすたゝいまものおほえすおきあからん心地もせてなむさるはこよひはかりこそかくもたちより給はめえきこえぬ事といははせたりさりとてかくおほつかなくてはいかゝかへりまいり侍らむいまひとゝころたにとせちにいひたれはしゝうそあひたりけるいとあさましおほしもあへぬさまにてうせ給にたれはいみしといふにもあかすゆめのやうにてたれも

くまとひ侍よしを申させ給へすこしも心地のとめ侍てなむひころもゝのおほしたりつるさまひとよいと心くるしとおもひきこえさせ給へりしありさまなともきこえさせ侍へきこのけからひなと人のいみはへるほとすくしていまひとたひたちより給へといひてなくこといといみしうちにもなくこゑ、くのみしてめのとなるへしあかきみやいつかたにかおはしましぬるかへり給へむなしきからをたにみたてまつらぬかゝひなくかなしくもあるかなあけくれみたてまつりてもあかすおほえ給ひいつしかゝひある御さまをみたてまつらむとあしたゆふへにたのみきこえつるにこそいのちものひ侍つれうちすて給ひてかくゆくゑもしらせ給はぬ事おにかみもあかきみをはえりやうしたてまつらし人のいみしくおしむ人をはたいしやくもかへし給なりあか君をとりたてまつりたらむ人にまれおにゝまれかへしたてまつれなき御からをもみたてまつらんといひつゝくるか心えぬことゝもましるをあやしと思ひて猶の給へもし人のかくしきこえ給へるかたしかにきこしめさんと御身のかはりにいたしたてさせ給へる御つかひなりいまはとてもかくてもかひなきことなれとのちにもきこしめしあはすることの侍らんにたかふことましらはまいりたらむ御つかひのつみなるへしまたさりともとたのませ給て君たちにたいめんせよとおほせられつる御心はえもかたしけ

なしとはおほされすやをんなのみちにまとひ給ことは人のみかとにもふるきためしともありけれとまたかゝることこのよにはあらしとなんみたてまつるといふにけにいとあはれなる御つかひにこそあれかくすとすともかくてれいならぬことのさまをのつからきこえなむと思ひてなとかいさゝかにても人やかくひたてまつり給らんと思よるへきことあらむにはかくしもあるかきりまとひ侍らむひころいといみしくものをおほしいるめりしかはかのとのゝわつらはしけにほのめかしきこえ給ことなともありき御ははにものし給人もかくのゝしるめのとなともはしめよりしりそめたりしかたにわたり給はんとなんいそきたちてこの御事をは人しれぬさまにのみかたしけなくあはれと思ひきえさせ給へりしに御心みたれけるなるへしあさましう心とみをなくなし給へるやうなれはかく心のまとひにひか　くしくいひつゝけらるゝなめりとさすかにまほならすほのめかす心えかたくおほえてさらはのとかにまいらむたちなから侍もいとことそきたるやうなりいま御身つからもおはしましなんといへはあなかたしけないまさら人のしりきこえさせむもなき御ためは中　くめてたき御すくせみゆへき事なれとしのひ給しことなれはまたもらさせ給はてやませ給はむなん御心さしに侍へきこゝにはかくよつかすうせ給へるよしを人にきかせしとよろつにまきらはすをしねんにこととものけしきもこそみゆれとおもへはかくそゝのかしやりつあめのいみしかりつるまきれにはゝ君もわたり給へりさらにいはむかたもなくめのまへになくなしたらむかなしさはいみしうともよのつねにてたくひあることなりこれはいかにしつる事そとまとふかゝる事とものまきれありていみしうもの思ひ給らんともしらねは身をなけ給へらんともおもひもよらすおにやくひつらんきつねめくものやとりもていぬらんいとむかしものかたりのあやしきものゝことのたとひにかさやうなる事もいふなりしと思ひいつさてはかのおそろしと思きこゆるあたりに心なとあしき御めのとやうのものやかうむかへ給へしときゝてめさましかりてたはかりたる人もやあらむとけすなとをうたかひいままいりの心しらぬやあるとゝへはいとよはなれたりとてありならはぬ人はこゝにてはかなきこともえせすいまとくまいらむといひてなむみなそのいそくへきものともなととりくしつゝ返いて侍にしとてもとよりある人たにかたへはなくていと人すくなゝるおりになんありけるしゝうなとこそひころの御けしきおもひいて身をうしなひてはやなとなきいり給ひしおり　くのありさまかきをき給へるふみをもみるになきかけにとかきすさひ給へるものゝすゝりのしたにありけるをみつけてかはのかたをみやりつゝひゝきのゝしる水のをとをきくにもうと

ましくかなしとおもひつゝさてうせ給けむ人をとかくいひさはきていつくにも
くいかなるかたになり給にけむとおほしうたかはんもいとおしきことゝいひ
あはせてしのひたる事とても御心よりおこりてありし事ならすおやにてなきの
ちにきゝ給へりともいとやさしき程ならぬをありのまゝにきこえてかくいみし
くおほつかなきことゝもをさへかた　く思ひまとひ給さまはすこしあきらめさ
せたてまつらんなくなり給へる人とてもからをゝきてもてあつかふこそよのつ
ねなれよつかぬけしきにてひころもへはさらにかくれあらし猶きこえていまは
よのきこえをたにつくろはむとかたらひてしのひてありしさまをきこゆるにい
ふ人もきえいりえいひやらすきく心地もまとひつゝさはこのいとあらましとお
もふかはになかれうせ給にけりと思ふにいとゝ我もおちいりぬへき心地しても
はしましにけむかたをたつねてからをたにはか　くしくをさめむとの給へとさ
らになにのかひ侍らし行衛もしらぬおほうみのはらにこそおはしましにけめさ
るものから人のいひつたへん事はいときゝにくしときこゆれはとさまかくさま
に思ふにむねのせきのほる心地していかにも　くすへきかたもおほえ給はぬを
この人〳〵ふたりして車よせさせておましともけちかうつかひ給し御てうととも
みななからぬきをき給へる御ふすまなとやうのものをとりいれてめのとこのた
いとくそれかおちのあさりそのてしのむつましきなともとよりしりたるおいほ
うしなと御いみにこもるへきかきりして人のなくなりたるけはひにまねひてい
たしたつるをめのとはゝ君はいといみしくゆゝしとふしまろふ大夫うとねりな
とおとしきこえしものともゝまいりて御さうそうの事はとのに事のよしも申さ
せ給て日さためられいかめしうこそつかうまつらめなといひけれとことさらこ
よひすくすましいとしのひてと思やうあれはなんとてこの車をむかひの山のま
へなるはらにやりて人もちかうもよせすこのあないしりたるほうしのかきりし
てやかすいとはかなくてけふりはゝてぬゐ中人ともは中中かゝる事をこと　く
しくしなしこといみなとふかくするものなりけれはいとあやしうれいのさほう
なとあることゝもしらすけすけすしくあへなくてせられぬる事かなとそしりけ
れはかたへおはする人はことさらにかくなむ京の人はし給なとそさまさまにな
んやすからすいひけるかゝる人とものいひ思ふことたにつゝましきをましても
のゝきこえかくれなき世の中に大将殿わたりにからもなくうせ給にけりときか
せ給はゝかならすおもほしうたかふこともあらむを宮はたおなし御なからひに
てさる人のおはしおはせすしはしこそしのふともおほさめつゐにはかくれあら
しまたさためて宮をしもうたかひきこえ給はしいかなる人かゐてかくしけんな

とそおほしよせむかしいき給ての御すくせはいとけたかくおはせし人のけになきかけにいみしきことをやうたかはれ給はんとおもへはこゝのうちなるしも人ともにもけさのあはたゝしかりつるまとひにけしきもみきゝつるにはくちかためあないしらぬにはきかせしなとそたはかりけるなからへてはたれにもしつやかにありしさまをもきこえてんたゝいまはかなしさゝめぬへきことふと人つてにきこしめさむは猶いと　くおしかるへきことなるへしとこの人ふたりそふかく心のおにそひたれはもてかくしける大将殿はにうたうの宮のなやみ給けれはいし山にこもり給てさはき給ころなりけりさていとゝかしこをおほつかなうおほしけれとはか　くしうさなむといふ人はなかりけれはかゝるいみしきことにもまつ御つかひのなきを人めも心うしと思にみさうの人なんまいりてしか　くと申させけれはあさましき心ちし給て御つかひそのまたの日またつとめてまいりたりいみしきことはきくまゝに身つからものすへきにかくなやみ給御事によりつゝしみてかゝるところに日をかきりてこもりたれはなむよへのことはなとかこゝにせうそこして日をのへてもさる事はする物をいとかろらかなるさまにていそきせられにけるとてもかくてもおなしいふかひなさなれととちめの事をしもやまかつのそしりをさへおふなむこゝのためもからきなとかのむつましきおほくらの大輔しての給へり御つかひのきたるにつけてもいとゝいみしきにきこえんかたなきことゝもなれはたゝなみたにおほゝれたるはかりをかことにてはか　くしうもいらへやらすなりぬとのは猶いとあへなくいみしときゝ給にも心うかりけるところかなおにになとやすむらむなとていまゝてさるところにすへたりつらむ思はすなるすちのまきれあるやうなりしもかくはなちをきたるに心やすくて人もいひをかし給なりけむかしと思にもわかたゆくよつかぬ心のみくやしく御むねいたくおほえ給なやませ給あたりにかゝる事おほしみたるゝもうたてあれは京におはしぬ宮の御かたにもわたり給はすこと　くしきほとにも侍らねとゆゝしき事をちかうきゝつれは心のみたれ侍ほともいまいましうてなときこえ給てつきせすはかなくいみしきよをなけき給ありしさまかたちいとあいきやうつきおかしかりしけはひなとのいみしく恋しくかなしけれはうつゝの世にはなとかくしも思はれすのとかにてすくしけむたゝいまはさらに思ひしつめんかたなきまゝにくやしきことのかすしらすかゝることのすちにつけていみしうものすへきすくせなりけりさまことに心さしたりし身の思のほかにかくれいの人にてなからふるをほとけなとのにくしとみ給にや人の心をおこさせむとてほとけのし給はうへむは慈悲をもかくしてかやうにこそはあなれと思つゝけ給

つゝをこなひをのみし給かの宮はたまして二三日は物もおほえ給はすうつし心
もなきさまにていかなる御物のけならんなとさはくにやうやうなみたつくし給
ておほししつまるにしもそありしさまは恋しういみしく思ひいてられ給ける人
にはたゝおほむやまいのをもきさまをのみゝせてかくすそろなるいやめのけし
きしらせしとかしこくもてかくすとおほしけれとをのつからいとしるかりけれ
はいかなることにかくおほしまとひ御いのちもあやうきまてしつみ給らんとい
ふ人もありけれはかのとのにもいとよくこの御けしきをきゝ給にされはよなを
よそのふみかよはしのみにはあらぬなりけりみ給てはかならすさおほしぬへか
りし人そかしなからへましかはたゝなるよりそ我ためにおこなる事もいてきな
ましとおほすになむこかるゝむねもすこしさむる心ちし給ける宮の御とふらひ
に日ゝにまいり給はぬ人なくよのさはきとなれるころこと　くしききはならぬ
思にこもりゐてまいらさらんもひかみたるへしとおほしてまいり給そのころ式
部卿宮ときこゆるもうせ給にけれはおほんをちのふくにてうすにひなるも心の
うちにあはれに思ひよそへられてつきつきしくみゆすこしおもやせていとゝな
まめかしきことまさり給へり人ゝまかりいてゝしめやかなるゆふくれなり宮ふ
ししつみてはなき御心ちなれはうとき人にこそあひ給はねみすのうちにもれい
ゝり給人にはたいめんし給はすもあらすみえ給はむもあひなくつゝましみ給に
つけてもいとゝなみたのまつせきかたさをおほせとおもひしつめておとろ　く
しき心ちにも侍らぬをみな人つゝしむへきやまゐのさまなりとのみものすれは
うちにも宮にもおほしさはくかいとくるしくけによの中のつねなきをも心ほそ
くおもひ侍との給ておしのこひまきらはし給とおほす涙のやかてとゝこほらす
ふりおつれはいとはしたなけれとかならすしもいかてか心えんたゝめゝしく心
よはきとやみゆらんとおほすもさりやたゝこの事をのみおほすなりけりいつよ
りなりけむ我をいかにおかしとものわらひし給心地に月ころおほしわたりつら
むと思にこの君はかなしさはわすれ給へるをこよなくもをろかなるかなものゝ
せちにおほゆるときはいとかゝらぬ事につけてたに空とふとりのなきわたるに
ももよをされてこそかなしけれわかかくすそろに心よはきにつけてももし心え
たらむにさいふはかりものゝあはれもしらぬ人にもあらすよの中のつねなき事
おしみておもへる人しもつれなきとうらやましくも心にくゝもおほさるゝ物か
らまきはしらはあはれなりこれにむかひたらむさまもおほしやるにかたみそか
しともうちまもり給やう　くよの物かたりきこえ給にいとこめてしもはあらし
とおほしてむかしより心にこめてしはしもきこえさせぬことのこし侍かきりは

いといふせくのみ思ひ給へられしをいまは中　く上らうになりにて侍りまして御いとまなき御ありさまにて心のとかにおはしますおりも侍らねはとのゐなとにその事となくてはえさふらはすそこはかとなくてすくし侍をなんむかし御らんせし山さとにはかなくてうせ侍にし人のおなしゆかりなる人おほえぬところに侍りときゝつけ侍りてとき　くさてみつへくやと思給へしにあいなく人のそしりも侍りぬへかりしおりなりしかはこのあやしき所にをきて侍しをおさ

　くまかりてみる事もなく又かれもなにかしひとりをあひたのむ心もことになくてやありけむとはみ給つれとやむことなくもの　くしきすちに思給へはこそあらめみるにはたことなるとかも侍らすなとして心やすくらうたしと思給へつる人のいとはかなくてなくなり侍にけるなへてよのありさまをおもひ給つゝけ侍にかなしくなんきこしめすやうも侍るらむかしとていまそなき給これもいとかうはみえたてまつらしおこなりと思ひつれとこほれそめてはいとゝめかたしけしきのいさゝかみたりかほなるをあやしくいとおしとおほせとつれなくていとあはれなることにこそきのふほのかにきゝ侍きいかにともきこゆへく思侍なからわさと人にきかせ給はぬ事ときゝ侍しかはなむとつれなくの給へといとたへかたけれはことすくなにておはしますさるかたにても御らむせさせはやと思給へりし人になんをのつからさもや侍けむ宮にもまいりかよふへきゆへ侍しかはなとすこしつゝけしきはみて御心ちれいならぬほとはすそろなるよのことききこしめしいれ御みゝおとろくもあいなきことになむよくつゝしませおはしませなとききこえをきていて給ぬいみしくもおほしたりつるかないとはかなかりけれとさすかにたかき人のすくせなりけりたうしのみかとききさきのさはかりかしつきたてまつり給みこかほかたちよりはしめてたゝいまのよにはたくひおはせさめりみ給人とてもなのめならすさま　くにつけてかきりなき人をゝきてこれに御心をつくしよの人たちさはきてすほうと経まつりはらへとみち　くにさはくはこの人をおほすゆかりの御心地のあやまりにこそはありけれわれもかはかりの身にて時のみかとの御むすめをもちたてまつりなからこの人のらうたくおほゆるかたはをとりやはしつるましていまはとおほゆるには心をのとめんかたなくもあるかなさるはおこなりかゝらしと思しのふれとさま　くに思ひみたれて人木石にあらされはみななさけありとうちすうしてふし給へりのちのしたゝめなともいとはかなくしてけるを宮にもいかゝきゝ給らむといとおしくあへなくははのなを　くしくてはらからあるはなとさやうの人はいふ事あんなるを思てことそくなりけんかしなと心つきなくおほすおほつかなさもかきりなきをあり

けむさまも身つからきかまほしとおほせとなかこもりし給はむもひんなしいきといきてたちかへらむも心くるしなとおほしわつらふ月たちてけふそわたらましとおほしいて給日の夕暮いとものあはれなりおまへちかきたちはなのかのなつかしきにほとゝきすのふたこゑはかりなきてわたるやとにかよはゝとひとりこち給もあかねはきたの宮にこゝにわたり給日なりけれは立花をおらせてきこえ賜

しのひねや君もなくらむかひもなきしてのたおさに心かよはゝ宮は女君の御さまのいとよくにたるをあはれとおほしてふたところなかめ給おりなりけりけしきある文かなとみ給て

たちはなのかほるあたりは郭公心してこそなくへかりけれわつらはしとかき給女君このことのけしきはみなみしり給てけりあはれにあさましきはかなさのさま　くにつけて心ふかきなかにわれひとりもの思しらねはいまゝてなからふるにやそれもいつまてと心ほそくおほす宮もかくれなきものからへたて給もいと心くるしけれはありしさまなとすこしはとりなをしつゝかたりきこえ給かくし給しかつらかりしなとなきみわらひみきこえ給にもこと人よりはむつましくあはれなりこと　くしくうるはしくてれいならぬ御事のさまもおとろきまとひ給所にては御とふらひの人しけくちゝおとゝせうとの君たちひまなきもいとうるさきにこゝはいと心やすくてなつかしくそおほされけるいと夢のやうにのみ猶いかていとにはかなりけることにかはとのみいふせけれはれいの人ゝめして右近をむかへにつかはすはゝ君もさらにこの水のをとけはひをきくにわれもまろひいりぬへくかなしく心うきことのとまるへくもあらねはいとわひしうてかへり給ひにけり念仏のそうともをたのもしきものにていとかすかなるにいりきたれはこと　くしくにはかにたちめくりしとのゐ人ともゝみとかめすあやにくにかきりのたひしもいれたてまつらすなりにしよと思いつるもいとおしさるましきことをおもほしこかるゝことゝみくるしくみたてまつれとこゝにきてはおはしましゝよな　くのありさまいたかれたてまつり給てふねにのり給しけはひのあてにうつくしかりしことなとを思出るに心つよき人なくあはれなり右近あひていみしうなくもことはりなりかくの給はせて御つかひになむまいりつるといへはいまさらに人もあやしといひ思はむもつゝましくまいりてもはか　くしくきこしめしあきらむはかりものきこえさすへき心ちもし侍らすこの御いみはてゝあからさまにもなんと人にいひなさんもすこしにつかはしかりぬへき程になしてこそ心よりほかのいのち侍らはいさゝか思ひしつまらむおりになん

おほせ事なくともまいりてけにいと夢のやうなりしことゝももかたりきこえまほしきといひてけふはうこくへくもあらす大夫もなきてさらにこの御中のことこまかにしりきこえさせ侍らす物の心しり侍すなからたくひなき御心さしをみたてまつり侍しかは君たちをもなにかはいそきてしもきこえうけ給はらむつゐにはつかうまつるへきあたりにこそと思給へしをいふかひなくかなしき御事のゝちはわたくしの御心さしも中　くふかさまさりてなむとかたらふわさと御車なとおほしめくらしてたてまつれ給へるをむなしくてはいと　くおしうなむいまひとゝころにてもまいり給へといへはしゝうの君よひいてゝさはまいり給へといへはましてなに事をかはきこえさせむさても猶この御いみの程にはいかてかいませ給はぬかといへはなやませ給御ひゝきにさま　くの御つゝしみともはへめれといみあへさせ給ましき御けしきになんまたかくふかき御ちきりにてはこもらせ給てもこそおはしまさめのこりの日いくはくならす猶ひとゝころまいり給へとせむれはしゝうそありし御さまもいと恋しう思きこゆるにいかならむよにかはみたてまつらむかゝるおりにと思ひなしてまいりけるくろききぬともきてひきつくろひたるかたちもいときよけなりもはたゝいまわれよりかみなる人なきにうちたゆみて色もかへさりけれはうすいろなるをもたせてまいるおはせましかはこのみちにそしのひていて給はまし人しれす心よせきこえしものをなと思にもあはれなりみちすからなく　くなむきける宮はこの人まいれりときこしめすもあはれなり女君にはあまりうたてあれはきこえ給はすしむてんにおはしましてわたとのにおろし給へりありけんさまなとくはしうとはせ給にひころおほしなけきしさまそのよなき給しさまあやしきまてことすくなにおほおほとのみものし給ていみしとおほすことをも人にうちいて給事はかたくものつゝみをのみし給ひしけにやの給ひをくことも侍らす夢にもかく心つよきさまにおほしかくらむとはおもひ給へすなむ侍しなとくはしうきこゆれはましていといみしうさるへきにてもともかくもあらましよりもいかはかりものを思ひたちてさる水におほれけんとおほしやるにこれをみつけてせきとめたらましかはとわきかへる心地し給へとかひなし御文をやきうしなひ給しなとになとてめをたて侍らさりけんなとよ一よかたらひ給にきこえあかすかの巻数にかきつけ給へりしはゝ君の返ことなとをきこゆなにはかりのものとも御らんせさりし人もむつましくあはれにおほさるれは我もとにあれかしあなたもゝてはなるへくやはとの給へはさてさふらはんにつけてもののみかなしからんを思給へれはいまこの御はてなとすくしてときこゆ又もまいれなとこの人をさへあ

かすおほすあか月かへるにかの御れうにとてまうけさせ給けるくしのはこひとよろひころもはこひとよろひをくり物にせさせ給さま　くにせさせ給ことはおほかりけれとおとろ　くしかりぬへけれはたゝこの人におほせたる程なりけりなに心もなくまいりてかゝることとものあるを人はいかゝみんすゝろにむつかしきわさかなと思ひわふれといかゝはきこえかへさむうこんとふたりしのひてみつゝつれ　くなるまゝにこまかにいまめかしうしあつめたることともをみてもゝみしうなくさうそくもいとうるはしうしあつめたる物ともなれはかゝる御ふくにこれをはいかてかかくさむなともてわつらひける大将殿も猶いとおほつかなきにおほしあまりておはしたりみちの程よりむかしのことゝもかきあつめつゝいかなるちきりにてこのちゝみこの御もとにきそめけむかゝる思ひかけぬはてまて思あつかひこのゆかりにつけては物をのみ思よいとたうとくおはせしあたりにほとけをしるへにてのちのよをのみちきりしに心きたなきするのたかひめに思しらするなめりとそおほゆる右近めしいてゝありけんさまもはか　くしうきかす猶つきせすあさましうはかなけれはいみののこりもすくなくなりぬすくしてと思ひつれとしつめあへすものしつるなりいかなる心ちにてかはかなくなり給にしとゝひ給にあま君なともけしきはみてけれはつゐにきゝあはせ給はんを中　くかくしてもことたかひてきこえんにそこなはれぬへしあやしきことのすちにこそそらことも思めくらしつゝならひしかかくまめやかなる御けしきにさしむかひきこえてはかねてといはむかくいはむとまうけしことはをもわすれわつらはしうおほえけれはありしさまのことゝもをきこえつあさましうおほしかけぬすちなるに物もとはかりの給はすさらにあらしとおほゆるかななへての人の思いふことをもこよなくことすくなにおほとかなりし人はいかてかさるおとろ　くしきことは思たつへきそいかなるさまにこの人ゝもてなしていふにかと御心もみたれまさり給へと宮もおほしなけきたるけしきいとしるしことのありさまもしかつれなしつくりたらむけはひはをのつからみえぬへきをかくおはしましたるにつけてもかなしくいみしきことをかみしもの人つとひてなきさはくをときゝ給へは御ともにくしてうせたる人やある猶ありけんさまをたしかにいへわれをゝろかなりと思てそむき給ことはよもあらしとなむ思ふいかやうなるたちまちにいひしらぬことありてかさるわさはし給はむわれなむえしむすましきとの給へはいとゝしくされはよとわつらはしくてをのつからきこしめしけむもとよりおほすさまならておいいて給へりし人のよはなれたる御すまいののちはいつとなく物をのみおほすめりしかとたまさかにもかくわ

たりおはしますをまちきこえさせ給にもとよりの御身のなけきをさへなくさめ給つゝ心のとかなるさまにてとき　くもみたてまつらせ給へきやうにはいつしかとのみことにいてゝはの給はねとおほしわたるめりしをその御ほいかなふへきさまにうけ給はる事とも侍しにかくてさふらふ人ともゝうれしきことに思たまへいそきかのつくは山もからうして心ゆきたるけしきにてわたらせ給はんことをいとなみ思給へしに心えぬ御せうそこ侍けるにこのとのゐつかふまつるものともゝ女はうたちらうかはしかなりなといましめおほせらるゝことなと申てものゝ心えすあら　くしきはゐ中人とものあやしきさまにとりなしきこゆることとも侍しをそのゝちひさしう御せうそこなとも侍らさりしに心うき身なりとのみいはけなかりし程よりおもひしるを人かすにいかてみなさんとのみよろつに思ひあつかひ給はゝ君の中　くなることの人わらはれになりてはいかに思ひなけかんなとおもむけてなんつねになけき給しそのすちよりほかになにことをかと思給へよるにたへ侍らすなむおになとのかくしきこゆともいさゝかのこるところも侍なる物をとてなくさまもいみしけれはいかなることにかとまきれつる御心もうせてせきあへ給はすわれはこゝろに身をもまかせすけむせうなるさまにもてなされたるありさまなれはおほつかなしとおもふおりもいまちかくて人の心をくましくめやすきさまにもてなしてゆくすゑなかくをと思のとめつゝすくしつるをゝろかにみなし給つらんこそ中　くわくるかたありけるとおほゆれいまはかくたにいはしとおもへとまた人のきかはこそあらめ宮の御ことよいつよりありそめけんさやうなるにつけてやいとかたはに人の心をまとはし給宮なれはつねにあひみたてまつらぬなけきに身をもうしなひ給へるとなむおもふなをいへわれにはさらになかくしそとの給へはたしかにこそはきゝ給てけれといと　くおしくていと心うきことをきこしめしけるにこそは侍なれ右近もさふらはぬおりは侍らぬものをとなかめやすらひてをのつからきこしめしけんこの宮のうへの御かたにしのひてわたらせ給へりしをあさましく思ひかけぬほとにいりおはしたりしかといみしきことをきこえさせ侍ていてさせ給にきそれにおち給てかのあやしく侍しところにはわたらせ給へりしなりそのゝちをとにもきこえしとおほしてやみにしをいかてかきかせ給けんたゝこのきさらきはかりよりをとつれきこえ給へし御ふみはいとたひ　く侍しかと御らんしいるゝことも侍らさりきいとかたしけなくうたてあるやうになとそ右近なときこえさせしかはひとたひふたゝひやきこえさせ給けむそれよりほかの事はみ給へすときこえさすかうそいはむかししゐてとはむもいとおしくてつく　くとうちなかめつゝ

宮をめつらしくあはれとおもひきこえてもわかかたをさすかにをろかにおもはさりけるほとにいとあきらむるところなくはかなけなりし心にてこの水のちかきをたよりにて思よるなりけんかしわかこゝにさしはなちすゑさらましかはいみしくうきよにふともいかてかかならすふかきたにをももとめいてましといみしううき水のちきりかなとこのかはのうとましうおほさるゝことといとふかしとしころあはれと思そめたりしかたにてあらき山路をゆきかへりしもいまはまた心うくてこのさとの名をたにえきくましき心地し給宮のうへのゝたまひはしめしひとかたとつけそめたりしさへゆゝしうたゝわかあやまちにうしなひつる人なりと思もてゆくにはゝはのなをかろひたるほとにてのちのうしろみもいとあやしくことそきてしなしけるなめりと心ゆかす思つるをくはしうきゝ給になむいかに思らむさはかりの人のこにてはいとめてたかりし人をしのひたる事はかならすしもえしらてわかゆかりにいかなることのありけるならむとそおもふなるらむかしなとよろつにいとおしくおほすけからひといふことはあるましけれと御ともの人めもあれはのほり給はて御くるまのしちをめしてつまとのまへにそゑ給ひけるもみくるしけれはいとしけきこのしたにこけをおましにてとはかりゑ給へりいまはこゝをきてみむことも心うかるへしとのみゝめくらしたまひて

われも又うきふるさとをあれはてはたれやとりきのかけをしのはむあさりいまはりしなりけりめしてこの法事のことをきてさせ給念仏そうのかすそへなとせさせ給つみいとふかゝなるわさとおほせはかろむへきことをそすへき七日くに経仏くやうすへきよしなとこまかにの給ていとくらうなりぬるにかへり給もあらましかはこよひかへらましやはとのみなんあま君にせうそこせさせ給へれといとも くゆゝしき身をのみおもひ給へしつみていとゝものも思給へられすほれ侍てなむうつふし伏て侍ときこえていてこねはしゑてもたちより給はすみちすからとくむかへとり給はすなりにけることくやしう水のをとのきこゆるかきりは心のみさはき給てからをたにたつねすあさましくてもやみぬるかないかなるさまにていつれのそこのうつせにましりけむなとやるかたなくおほすかのはゝ君は京にこうむへきむすめのことによりつゝしみさはけはれいのいゑにもえいかすすゝろなるたひゑのみして思なくさむおりもなきにまたこれもいかならむとおもへとたいらかにうみてけりゆゝしけれはえよらすのこりの人ゝのうへもおほえすほれまとひてすくすに大将殿より御つかひしのひてありものおほえぬ心ちにもいとうれしくあはれなりあさましきことはまつきこえむと思

給へしを心ものとまらすめもくらき心地してまいていかなるやみにかまとはれ
給らんとそのほとをすくしつるにはかなくてひころもへにけることをなんよの
つねなさもいとゝおもひのとめむかたなくのみ侍るを思ひのほかにもなからへ
はすきにしなこりとはかならすさるへきことにもたつね給へなとこまかにかき
給て御つかひにはかのおほくらの大夫をそ給へりける心のとかによろつを思つ
ゝとしころにさへなりにけるほとかならすしも心さしあるやうにはみ給はさり
けむされといまよりのちなにことにつけてもかならすわすれきこえしまたさや
うにを人しれす思をき給へをさなき人ともゝあなるをおほやけにつかうまつら
むにもかならすうしろみ思へくなむなとこと葉にもの給へりいたくしもいむま
しきけからひなれはふかうしもふれ侍らすなといひなしてせめてよひすゑたり
御返なく　くかくいみしきことにしなれ侍らぬいのちを心うくおもふ給へなけ
き侍にかゝるおほせ事み侍へかりけるにやとなんとしころはこゝろほそきあり
さまをみ給へなからそれはかすならぬ身のをこたりに思給へなしつゝかたしけ
なき御ひとことをゆくすゑなかくたのみきこえ侍しにいふかひなくみ給へはて
ゝはさとのちきりもいと心うくかなしくなんさま　くにうれしきおほせことに
いのちのひ侍りていましはしなからへ侍らはなをたのみきこえ侍へきにこそと
思給ふるにつけてもめのまへのなみたにくれてえきこえさせやらすなむなとか
きたり御つかひになへてのろくなとはみくるしきほとなりあかぬ心ちもすへけ
れはかの君にたてまつらむと心さしてもたりけるよきはむさいのおひたちのお
かしきなとふくろにいれて車にのるほとこれはむかしの人の御心さしなりとて
をくらせてけりとのに御らんせさすれはいとすそろなるわさかなとの給ことは
には身つからあひ侍りたうひていみしくなく　くよろつの事のたまひてをさな
きものともへのことまておほせられたるかいともかしこきにまたかすならぬほと
はなか　くいとはつかしう人になにゆへなとはしらせ侍らてあやしきさまとも
をもみなまいらせ侍りてさふらはせんとなむものし侍つるときこゆけにことな
ることなきゆかりむつひにそあるへけれとみかとにもさはかりの人のむすめた
てまつらすやはあるそれにさるへきにて時めかしおほさんは人のそしるへきこ
とかはたゝ人はたあやしき女よにふりにたるなとをもちゐるたくひおほかりか
のかみのむすめなりけりと人のいひなさんにもわかもてなしのそれにけかるへ
くありそめたらはこそあらめひとりのこをいたつらになしておもふらんおやの
心に猶このゆかりこそおもたゝしかりけれと思しるはかりよういはかならすみ
すへきことゝおほすかしこにはひたちのかみたちなからきておりしもかくてゐ

給へることなむとはらたつとしころいつくになむおはするなとありのまゝにもしらせさりけれははかなきさまにておはすらむと思ひいひけるを京になとむかへ給てのちめいほくありてなとしらせむとおもひけるほとにかゝれはいまはかくさんもあひなくてありしさまなく　くかたる大将殿の御ふみもとりいてゝみすれはよき人かしこくしてひなひもものめてする人にておとろきをくしてうちかへし　くいとめてたき御さいはいをすててうせ給にける人かなをのれもとの人にてまいりつかうまつれともちかくめしつかふこともなくいとけたかくおもはするとのなりわかきものともものことおほせられたるはたのもしきことになんなとよろこふをみるにもましておはせましかはと思にふしまろひてなかるかみもいまなんうちなきけるさるはおはせしよには中　くかゝるたくひの人しもたつね給へきにしもあらすかしわかあやまちにてうしなひつるもいとおしなくさめむとおほすよりなむ人のそしりねんころにたつねしとおほしける四十九日のわさなとせさせ給にもいかなりけんことにかはとおほせはとてもかくてもつみうましきことなれはいとしのひてかのりしのてらにてせさせ給ける六十そうのふせなとおほきにをきてられたりはゝ君もきゐてこととともそへたり宮よりは右近かもとにしろかねのつほにこかねいれて給へり人みとかむはかりおほきなるわさはえし給はす右近か心さしにてしたりけれは心しらぬ人はいかてかくなむなといひけるとのゝ人ともむつましきかきりあまた給へりあやしくをともせさりつる人のはてをかくあつかはせ給たれならむといまおとろく人のみおほかるにひたちのかみきてあるしかりおるなんあやしと人ゝみける少将のこうませていかめしきことせさせむとまとひいゐのうちになきものはすくなくもろこししらきのかさりをもしつへきにかきりあれはいとあやしかりけりこの御ほうしのしのひたるやうにおほしたれとけはひこよなきをみるにいきたらましかはわか身をならふへくもあらぬ人の御すくせなりけりと思ふ宮のうへもす経し給ひ七そうのまへの事せさせ給けりいまなむかゝる人もたまへりけりとみかとまてもきこしめしてをろかにもあらさりける人を宮にかしこまりきこえてかくしをき給たりけるいとおしとおほしけるふたりの人の御心のうちふりすかなしくあやにくなりし御思ひのさかりにかきたえてはいといみしけれはあたなる御心はなくさむやなと心み給こともやう　くありけりかのとのはかくとりもちてなにやかやとおほしてのこりのひとをはくゝませ給ても猶いふかひなき事をわすれかたくおほすきさいの宮の御きやうふくのほとはなをかくておはしますに二の宮なむしきふきやうになり給にけるをも　くしうてつねにしもまいり給はすこの宮

はさう　くしくものあはれなるまゝに一品の宮の御かたをなくさめところにし給よき人のかたちをもえまほにみ給はぬのこりおほかり大将殿のからうしていとしのひてかたらはせ給こさい将の君といふ人のかたちなともきよけなり心はせあるかたの人とおほされたりおなしことをかきならすつまをとはちをとも人にはまさりふみをかきものうちいひたるもよしあるふしをなむそへたりけるこの宮もとしころいといたき物にし給てれいのいひやふり給へとなとかさしもめつらしけなくはあらむと心つよくねたきさまなるをまめ人はすこし人よりことなりとおほすになんありけるかくものおほしたるもみしりけれはしのひあまりてきこえたり

　あはれしるこゝろは人にをくれねとかすならぬ身にきえつゝそふるかへたらはとゆへあるかみにかきたりものあはれなるゆふ暮しめやかなるほとをいとよくをしはかりていひたるもにくからす

　つねなしとこゝらよをみるうき身たに人のしるまてなけきやはするこのよろこひあはれなりしおりからもいとゝなむなといひにたちよりたまへりいとはつかしけにもの　くしけにてなへてかやうになともならし給はぬ人からもやむことなきにいとものはかなきすまゐなりかしつほねなといひてせはくほとなきやりとくちによりゐ給へるかたはらいたくおほゆれとさすかにあまりひけしてもあらていとよきほとにものなともきこゆみえし人よりもこれは心にくきけそひてもあるかななとてかくいてたちけんさるものにて我もおいたらましものをとおほす人しれぬすちはかけてもみせ給はすはちすの花のさかりに御はかうせらる六条院の御ためむらさきのうへなとみなおほしわけつゝ御経仏なとくやうせさせ給ていかめしくたうとくなんありける五巻の日なとはいみしきみものなりけれはこなたかなた女はうにつきてまいりてものみる人おほかりけりいつかといふあさゝにはてゝみたうのかさりとりさけ御しつらひあらたむるにきたのひさしもさうしともはなちたりしかはみないりたちてつくろふほとにしのわた殿にひめ宮おはしましけりものきゝこうして女はうもをの　くつほねにありつゝ御まへはいと人すくなゝるゆふ暮に大将殿なをしきかへてけふまかつるそうの中にかならすの給へきことあるによりつりとのゝかたにおはしたるにみなまかてぬれはゐけのかたにすゝみ給て人すくなゝるにかくいふさい将の君なとかりそめにき丁なとはかりたてゝうちやすむうへつほねにしたりこゝにやあらむ人のきぬのをとすとおほしてめたうのかたのさうしのほそくあきたるよりやをらみ給へはれいさやうの人のゐたるけはひにはにすはれ　くしくしつらひたれ

は中　くき丁とものたてちかへたるあはひよりみとをされてあらはなりひをもの〻ふたにをきてわるとてもてさはく人〻おとな三人はかりわらはといたりからきぬもかさみもきすみなうちとけたれはおまへとはみ給はぬにしろきうすもの〻御そきかへ給へる人のてにひをもちなからかくあらそふをすこしゑみ給へる御かほいはむかたなくうつくしけなりいとあつさのたへかたき日なれはこちたき御くしのくるしうおほさるゝにやあらむすこしこなたになひかしてひかれたるほとたとへんものなしこゝらよき人をみあつむれとにるへくもあらさりけりとおほゆ御まへなる人はまことにつちなとの心ちそするを思ひしつめてみれはきなるすゝしのひとへうすいろなるもきたる人のあふきうちつかひたるなとよういあらむはやとふとみえてなか　くものあつかひにいとくるしけなりたゝさなからみ給へかしとてわらひたるまみあひ行つきたりこゑきくにそこの心さしの人とはしりぬる心つよくわりて手ことにもたりかしらにうちをきむねにさしあてなとさまあしうする人もあるへしこと人はかみにつゝみて御まへにもかくてまいらせたれといとうつくしき御てをさしやり給てのこはせ給いなもたらししつくむつかしとの給御こゑいとほのかにきくもかきりもなくうれしまたいとちいさくおはしましゝほとにわれもものゝ心もしらてみたてまつりしときめてたのちこの御さまやとみたてまつりしそのゝちたえてこの御けはひをたにきかさりつるものをいかなる神仏のかゝるおりみせ給へるならむれいのやすからすものおもはせむとするにやあらむとかつはしつ心なくてまもりたちたるほとにこなたのたいのきたおもてにすみけるけらう女はうのこのさうしはとみのことにてあけなからおりにけるをおもひいてゝ人もこそみつけてさはかるれとおもひけれはまとひいるこのなをしすかたをみつくるにたれならんと心さはきてをのかさまみえんこともしらすすのこよりたゝきにくれはふとたちさりてたれともみえしすき　くしきやうなりとおもひてかくれ給ひぬこのおもとはいみしきわさかなみき丁をさへあらはにひきなしてけるよ右の大殿の君たちならんうとき人はたこゝまてくへきにもあらすものゝきこゑあらはたれかさうしあけたりしとかならすいてきなんひとへもはかまもすゝしなめりとみえつる人の御すかたなれはえ人もきゝつけ給はぬならんかしと思こうしてをりかの人はやう

　くひしりになりし心をひとふしたかへそめてさま　くなるもの思人ともなるかなそのかみよをそむきなましかはいまはふかき山にすみはてゝかく心みたれましやはなとおほしつゝくるもやすからすなとてとしころみたてまつらはやと思つらんなか　くくるしうかひなかるへきはさにこそとおもふつとめておき給

へる女宮の御かたちいとおかしけなめるはこれよりかならすまさるへきことか
はとみえなからさらにゝ給はすこそありけれあさましきまてあてにえもいはさ
りし御さまかなかたへは思なしかおりからかとおほしていとあつしやこれより
うすき御そたてまつれをんなはれいならぬものきたるこそ時　くにつけておか
しけれとてあなたにまいりて大弐にうす物のひとへの御そぬひてまいれといへ
との給御まへなる人はこの御かたちのいみしきさかりにおはしますをもてはや
しきこえ給とおかしうおもへりれいのねんすし給わか御かたにおはしましなと
してひるつかたわたり給へれはの給つる御そみき丁にうちかけたりなそこはた
てまつらぬ人おほくみるときなむすきたるものきるははうそくにおほゆるたゝ
いまはあえ侍なんとててつからきせたてまつり給御はかまもきのふのおなしく
れなゐなり御くしのおゝさすそなとはをとり給はねとなをさま　くなるにやに
るへくもあらすひめして人〻にわらせ給とりてひとつたてまつりなとし給心の
うちもおかしゑにかきてこひしき人みる人はなくやはありけるましてこれはな
くさめむにゝけなからぬおほむほとそかしとおもへときのふかやうにてわれま
しりゐ心にまかせてみたてまつらましかはとおほゆるに心にもあらすうちなけ
かれぬ一品宮に御ふみはたてまつり給やときこえ給へはうちにありし時うへの
さの給しかはきこえしかとひさしうさもあらすとの給たゝ人にならせ給にたり
とてかれよりもきこえさせ給はぬにこそは心うかなれいまおほ宮の御まへにて
うらみきこえさせ給とけいせんとの給いかゝうらみきこえんうたてとの給へは
けすになりにたりとておほしおとすなめりとみれはおとろかしきこえぬとこそ
はきこえめとの給その日はくらしてまたのあしたにおほ宮にまいり給れいの宮
もおはしけり丁子にふかくそめたるうす物のひとへをこまやかなるなをしにき
給へるいとこのましけなる女の御身なりのめてたかりしにもをとらすしろくき
よらにて猶ありしよりはおもやせ給へるいとみるかひありおほえ給へりとみる
にもまつ恋しきをいとあるましきことゝしつむるそたゝなりしよりはくるしき
ゑをいとおほくもたせてまいり給へりける女はうしてあなたにまいらせ給てわ
たらせ給ぬ大将もちかくまいりより給て御はかうのたうとく侍しこといにしへ
の御ことすこしきこえつゝのこりたるゑみ給ついてにこのさとにものし給みこ
の雲のうへはなれて思くし給へるこそいとおしうみ給ふれひめ宮の御かたより
御せうそこも侍らぬをかくしなさたまり給へるにおほしすてさせ給へるやうに
おもひて心ゆかぬけしきのみ侍るをかやうのものとき　くものせさせはなむな
にかしかおろしてもてまからんはたみるかひも侍らしかしとの給へはあやしく

なとてかすてきこえ給はむうちにてはちかゝりしにつきてとき　くもきこえ給
めりしをところ　くになり給しおりにとたえ給へるにこそあらめいまそゝのか
しきこえんそれよりもなとかはときこえ給かれよりはいかてかはもとよりかす
まへさせ給はさらむをもかくしたしくてさふらふへきゆかりによせておほしめ
しかすまへさせ給はんをこそうれしくは侍へけれましてさもきこえなれ給にけ
むをいますてさせ給はんはからきことに侍りとけいせさせ給をすきはみたるけ
しきあるかとはおほしかけさりけりたちいてゝひとよの心さしの人にあはんあ
りしわたとのもなくさめにみむかしとおほして御まへをあゆみわたりてにしさ
まにおはするをみすのうちの人は心ことにようういすけにいとさまよくかきりな
きもてなしにてわたとのゝかたはひたりのおほとのゝ君たちなといてものいふ
けはひすれはつまとのまへにゐ給ておほかたにはまいりなからこの御かたのけ
さむにいることのかたく侍れはいとおほえなくおきなひはてにたる心ちし侍を
いまよりはとおもひおこし侍てなんありつかすわかき人ともそおもふらんかし
とおひの君たちのかたをみやり給いまよりならはせ給こそけにわかくならせ給
ならめなとはかなきことをいふ人ゝのけはひもあやしうみやひかにおかしき御
かたのありさまにそあるその事となけれとよの中の物かたりなとしつゝしめや
かにれいよりはゐ給へりひめ宮はあなたにわたらせ給にけり大宮大将のそなた
にまいりつるはととひ給御ともにまいりたる大納言の君こさい将の君にものゝ
給はんとにこそはゝへめりつれときこゆるにれいまめ人のさすかに人に心とゝ
めて物かたりするこそ心ちをくれたらむ人はくるしけれ心の程もみゆらんかし
こさい将なとはいとうしろやすしとの給ひて御はらからなれとこの君をは猶は
つかしく人もよういなくてみえさらむかしとおほいたり人よりは心よせ給てつ
ほねなとにたちより給へし物かたりこまやかにし給てよふけてゐて給おり　く
も侍れとれいのめなれたるすちには侍らぬにや宮をこそいとなさけなくおはし
ますと思ひて御いらへをたにきこえす侍めれかたしけなきことゝいひてわらへ
は宮もわらはせ給ていとみくるしき御さまを思ひしるこそおかしけれいかてか
ゝる御くせやめたてまつらんはつかしやこの人ゝもとの給ふいとあやしきこと
をこそきゝ侍しかこの大将のなくなし給てし人は宮の御二条のきたのかたの御
おとうとなりけりことはらなるへしひたちのさきのかみなにかしかめはをはと
もはゝともいひ侍なるはいかなるにかその女君に宮こそいとしのひておはしま
しけれ大将とのやきゝつけ給たりけむにはかにむかへ給はんとてまもりめそへ
なとこと　くしくし給けるほとに宮もいとしのひておはしましなからえいらせ

給はすあやしきさまに御むまなからたゝせ給つゝそかへらせ給ける女も宮を思きこえさせけるにやにはかにきえうせにけるをみなけたるなめりとてこそめのとなとやうの人ともはなきまとひ侍けれときこゆ宮もいとあさましとおほしてたれかさることはいふとよいとおしく心うきことかなさはかりめつらかならむことはをのつからきこえありぬへきを大将もさやうにはゐはてよの中のはかなくいみしきことかくうちの宮のそうのいのちみしかゝりけることをこそいみしうかなしと思ての給しかとの給いさやけすはたしかならぬことをもいひ侍ものをとおもひ侍れとかしこに侍けるしもわらはのたゝこのころさい将かさとにいてまうてきてたしかなるやうにこそいひ侍けれかくあやしうてうせ給へること人にきかせしおとろ　くしくをそきやうなりとていみしくかくしける事ともとてさてくはしくはきかせたてまつらぬにやありけんときこゆれはさらにかゝること又まねふなといはせよかゝるすちに御身をもゝてそこなひ人にかるく心つきなき物に思はれぬへきなめりといみしうおほいたりそのゝちひめ宮の御かたより二の宮に御せうそこありけり御てなとのいみしうゝつくしけなるをみるにもいとうれしくかくてこそとくみるへかりけれとおほすあまたおかしきゑともおほく大宮もたてまつらせ給へり大将殿うちまさりておかしきともあつめてまいらせ給せりかはの大将のとを君の女一の宮思かけたる秋のゆふ暮に思わひていてゝいきたるかたおかしうかきたるをいとよく思よせらるかしかはかりおほしなひく人のあらましかはと思ふ身そくちおしき

　荻の葉に露ふきむすふ秋風もゆふへそわきて身にはしみけるとかきてもそへまほしくおほせとさやうなる露はかりのけしきにてももりたらはいとわつらはしけなるよなれはゝかなきこともえほのめかしいつましかくよろつになにやかやとものを思のはてはむかしの人のものし給はましかはいかにも　くほかさまに心わけましやときのみかとの御むすめを給ともえたてまつらさらましたさ思人ありときこしめしなからはかゝることもなからましをなを心うくわか心みたり給けるはしひめかなと思ひあまりては又みやのうへにとりかゝりてこひしうもつらくもわりなきことそおこかましきまてくやしきこれに思わひてさしつきにはあさましくてうせにし人のいと心をさなくとゝこほるところなかりけるかろ　くしさをはおもひなからさすかにいみしとものをおもひいりけんほとわかけしきれいならすと心のおにゝなけきしつみてゐたりけんありさまをきゝ給しもおもひいてられつゝをもりかなるかたならてたゝ心やすくらうたきかたらひ人にてあらせむと思ひしにはいとらうたかりし人をおもひもていけは宮

をもおもひきこえし女をもうしとおもはしたゝわかありさまのよつかぬをこたりそなとなかめいり給とき　くおほかり心のとかにさまよくおはする人たにかゝるすちには身もくるしき事をのつからましるを宮はましてなくさめかねつゝかのかたみにあかぬかなしさをもの給いつへき人さへなきをたいの御かたはかりこそはあはれなとの給へとふかくもみなれ給はさりけるうちつけのむつひなれはいとふかくしもいかてかはあらむまたおほすまゝにこひしやいみしやなとの給はんにはかたはらいたけれはかしこにありししゝうをそれいのむかへさせ給けるみな人ともはいきちりてめのとゝこの人ふたりなんとりわきておほしたりしもわすれかたくてしゝうはよそ人なれとなをかたらひてありふるによつかぬかはのをともうれしきせもやあるとたのみしほとこそなくさめけれ心うくいみしくものおそろしくのみおほえて京になんあやしきところにこのころきてゐたりけるたつね給ひてかくてさふらへとの給へは御心はさるものにて人ゝのいはむこともさるすちの事ましりぬるあたりはきゝにくきこともあらむとおもへはうけひきゝこえすきさいの宮にまいらむとなんおもむけたれはいとよかなりさて人しれすおほしつかはんとの給はせけり心ほそくよるへなきもなくさむやとてしるたよりもとめまいりぬきたなけなくてよろしきけらうなりとゆるして人もそしらす大将とのもつねにまいり給をみるたひことにものゝみあはれなりいとやむことなきものゝひめ君のみまいりつとひたるみやと人もいふをやう　くめとゝめてみれとみたてまつりし人にゝたるはなかりけりと思ありくこのはるうせ給ぬるしきふきやうの宮の御むすめをまゝはゝのきたのかたことにあひおもはてせうとのむまのかみにて人からもことなることなき心かけたるをいとおしうなとも思たらてさるへきさまになんちきるときこしめすたよりありていとおしうちゝ宮のいみしくかしつき給ける女君をいたつらなるやうにもてなさんことなとの給はせけれはいと心ほそくのみおもひなけき給ありさまにてなつかしうかくたつねの給はするをなと御せうとのしゝうもいひてこのころむかへとらせ給てけりひめ宮の御くにていとこよなからぬ御ほとの人なれはやむ事なく心ことにてさふらひ給かきりあれは宮の君なとうちいひてもはかりひきかけ給そいとあはれなりける兵部卿宮この君はかりやこひしき人に思よそへつへきさましたらむちゝみこははらからそかしなとれいの御心は人をこひ給につけても人ゆかしき御くせやまていつしかと御心かけ給てけり大将もとかしきまてもあるわさかなきのふけふといふはかり春宮にやなとおほし我にもけしきはませ給きかしかくはかなきよのおとろへをみるには水のそこに

身をしつめてももとかしからぬわさにこそなとおもひつゝ人よりは心よせきこえ給へりこの院におはしますをはうちよりもひろくおもしろくすみよきものにしてつねにしもさふらはぬともゝみなうちとけすみつゝはる　くとおほかるたいともらうわたとのにみちたり左大臣とのむかしの御けはひにもおとらすすへてかきりもなくいとなみつかうまつり給いかめしうなりたる御そうなれはなか　くいにしへよりもいまめかしきことはまさりてさへなむありけるこの宮れいの御こゝろならは月ころのほとにいかなるすきことゝもをしいて給はましこよなくしつまり給て人めにすこしおいなをり給かなとみゆるをこのころそ又宮の君に本上あらはれてかゝつらひありき給けるすゝしくなりぬとて宮うちにまいらせ給なんとすれはあきのさかり紅葉のころをみさらんこそなとわかき人ゝはくちおしかりてみなまいりつとひたるころなり水になれ月をめてゝ御あそひたえすつねよりもいまめかしけれはこの宮そかゝるすちはいとこよなくもてはやし給あさゆふめなれてもなをいまみむはつ花のさまし給へるに大将の君はいとさしもいりたちなとし給はぬほとにてはつかしう心ゆるひなきものにみな思たりれいのふたところまいり給ておまへにおはするほとにかのしゝうはものよりのそきたてまつるにいつかたにも　くよりてめてたき御すくせみえたるさまにてよにそおはせましかしあさましくはかなく心うかりける御心かなゝと人にはそのわたりの事かけてしりかほにもいはぬことなれは心ひとつにあかすむねいたく思宮はうちの御物かたりなとこまやかにきこえさせ給へはいまひとゝころはたちいて給みつけられたてまつらししはし御はてをもすくさす心あさしとみえたてまつらしとおもへはかくれぬひんかしのわたとのにあきあひたるとくちに人ゝあまたゐてものかたりなとする所におはしてなにかしをそ女はうはむつましとおほすへき女たにかく心やすくはよもあらしかしさすかにさるへからんことをしへきこえぬへくもありやう　くみしり給へかめれはいとなんうれしきとの給へはいといらへにくゝのみおもふなかに弁のをもとゝてなれたるおとなそもむつましく思きこゆへきゆへなき人のはちきこえ侍らぬにやものはさこそはなか　く侍めれかならすそのゆへたつねてうちとけ御らんせらるゝにしも侍らねとかはかりおもなくつくりそめてけるみにおはささらんもかたはらいたくてなむときこゆれははつへきゆへあらしと思さため給てけるこそくちおしけれなとの給つゝみれはからきぬはぬきすへしをしやりうちとけて手習しけるなるへしすゝりのふたにすへて心もとなきはなのするゐたおりてもてあそひけりとみゆかたへはき丁のあるにすへりかくれあるはうちそむきおしあけたるとのかた

にまきらはしつゝゐたるかしらつきともゝおかしとみわたし給てすゝりひきよせて

女郎花みたるゝ野辺にましるとも露のあたなをわれにかけめや心やすくはおほさてとたゝこのさうしにうしろしたる人にみせ給へはうちみしろきなともせすのとやかにいとゝく

花といへはなこそあたなれをみなへしなへての露にみたれやはするとかきたるてたゝかたそはなれとよしつきておほかためやすけれはたれならむとみ給いままうのほりけるみちにふたけられてとゝこほりいたるなるへしとみゆ弁のをもとはいとけさやかなるおきなことにくゝ侍りとて

旅ねして猶心みよをみなへしさかりの色にうつりうつらすさてのちさためきこえさせんといへは

宿かさはひとよはねなん大方の花にうつらぬこゝろなりともとあれはなにかはつかしめさせ給おほかたののへのさかしらをこそきこえさすれといふはかなきことをたゝすこしのたまふも人はのこりきかまほしくのみ思きこえたり心なしみちあけはへりなんよわきてもかの御ものはちのゆへかならすありぬへきおりにそあめるとてたちいて給へはをしなへてかくのこりなからむと思ひやり給こそ心うけれとおもへる人もありひんかしのかうらむにおしかゝりてゆふかけになるまゝに花のひもとくおまへのくさむらをみわたし給ものゝみあはれなるになかについてはらわたたゆるは秋の天といふ事をいとしのひやかにすんしつゝゐ給へりありつるきぬのをとなひしるきけはひしてもやの御さうしよりとほりてあなたにいるなり宮のあゆみをはしてこれよりあなたにまいりつるはたそとゝひ給へはかの御かたの中将の君ときこゆなりなをあやしのわさやたれにかとかりそめにもうち思ふ人にやかてかくゆかしけなくきこゆるなさしよといとおしくこの宮にはみなめなれてのみおほえたてまつるへかめるもくちおしおりたちてあなかちなる御もてなしに女はさもこそまけたてまつらめわかさもくちおしうこの御ゆかりにはねたく心うくのみあるかないかてこのわたりにもめつらしからむ人のれいの心いれてさはき給はんをかたらひとりてわか思ひしやうにやすからすとたにも思はせたてまつらんまことに心はせあらむ人はわかかたにそよるへきやされとかたいものかな人の心はと思ふにつけてたいの御かたのかの御ありさまをはふさはしからぬものに思きこえていとひんなきむつひになりゆくかおほかたのおほえをはくるしと思なから猶さしはなちかたきものにおほししりたるそありかたくあはれなりけるさやうなる心はせある人こゝらの

中にあらむやいりたちてふかくみねはしらぬそかしねさめかちにつれつれなるをすこしはすきもならははやなと思ふにいまはなをつきなしれいのにしのわたとのをありしにならひてわさとおははしたるもあやしひめ宮よるはあなたにわたらせ給けれは人〻月みるとてこのわた殿にうちとけてものかたりするほとなりけりさうのこといとなつかしうひきすさむつまをとおかしうきこゆおもひかけぬによりおはしてなとかくねたましかほにかきならし給との給にみなおとろかるへけれとすこしあけたるすたれうちおろしなともせすおきあかりてにるへきこのかみやは侍へきといらふるこゑ中将のおもとゝかいひつるなりけりまろこそ御はゝかたのおちなれとはかなきことをの給てれいのあなたにおはしますへかめりななにわさをかこの御さとすみの程にせさせ給なとあちきなくとひ給いつくにてもなにことをかはたゝかやうにてこそはすくさせ給めれといふにおかしの御身の程やと思ふにすゝろなるなけきのうちわすれてしつるもあやしと思よる人もこそとまきらはしにさしいてたるわこんをたゝさなからかきならし給りちのしらへはあやしくおりにあふときくこゑなれはきゝにくゝもあらねとひきはて給はぬをなか　くなりと心いれたる人はきえかへり思ふわかはゝ宮もおとり給へき人かはきさいはらときこゆはかりのへたてこそあれみかと　くのおほしかしつきたるさまこと　くならさりけるを猶この御あたりはいとことなりけるこそあやしけれあかしのうらは心にくかりける所かななとおもひつゝくる事ともにわかすくせはいとやむことなしかしましてならへてもちたてまつらはと思ふそいとかたきや宮の君はこの西のたいにそ御かたしたりけるわかき人〻のけはひあまたして月めてあへりいてあはれこれもまたおなし人そかしと思いてきこえてみこのむかし心よせたまひしものをといひなしてそなたへおはしぬわらはのおかしきとのゐすかたにて二三人いてゝありきなとしけりみつけているさまともかゝやかしこれそよのつねと思みなみおもてのすみのまによりてうちこわつくり給へはすこしをとなひたる人いてきたり人しれぬ心よせなときこえさせ侍れは中　くみな人きこえさせふるしつらむことをうひ　くしきさまにてまねふやうになり侍りまめやかになむことよりほかをもとめられ侍との給へは君にもいひつたへすさかしたちていとおもほしかけさりし御ありさまにつけてもこ宮の思きこえさせ給へりしことなと思給へいてられてなむかくのみおり　くきこえさせ給なり御しりうことをもよろこひきこえ給めるといふなみ　くの人めきて心ちなのさまやとものうけれはもとよりおほしすつましきすちよりもいまはましてさるへきことにつけてもおもほしたつねんなんうれしかるへき

うとうとしう人つてなとにてもてなさせ給はゝえこそとの給にけにと思さはきて君をひきゆるかすめれはまつもむかしのとのみなかめらるゝにももとよりなとの給すちはまめやかにたのもしうこそいと人つてともなくいひなし給へるこゑいとわかやかにあい行つきやさしき所そひたりたゝなへてのかゝるすみかの人とおもはゝいとおかしかるへきをたゝいまはいかてかはかりも人にこゑきかすへきものとならひ給けんとなまうしろめたしかたちもいとなまめかしからむかしとみまほしきけはひのしたるをこの人そまたれいのかの御心みたるへきつまなめるとおかしうもありかたのよやと思ひゐ給へりこれこそはかきりなき人のかしつきおほしたて給へるひめ君又かはかりそおほくはあるへきあやしかりけることはさるひしりの御あたりに山のふところよりいてきたる人ゝのかたほなるはなかりけるこそこのはかなしやかろ　くしやなと思なす人もかやうのうちみるけしきはいみしうこそおかしかりしかとなにことにつけてもたゝかのひとつゆかりをそ思ひいて給けるあやしうつらかりけるちきりともをつく　くと思つゝけなかめ給ゆふくれかけろふのものはかなけにとひちかふを

ありとみて手にはとられすみれは又ゆくゑもしらすきえしかけろふあるかなきかのとれいのひとりこち給とかや